

地域ぐるみ家庭教育支援事業の概要

現状の課題

【子どもたちを取り巻く環境の変化】

- 少子高齢化の進展
- 情報過多
- 地域間格差・経済的格差の進行
- 核家族化
- 共働き世帯・ひとり親世帯の増加
- 地域のつながりの希薄化
- 保護者の子育て意識の多様化 等

事業目的

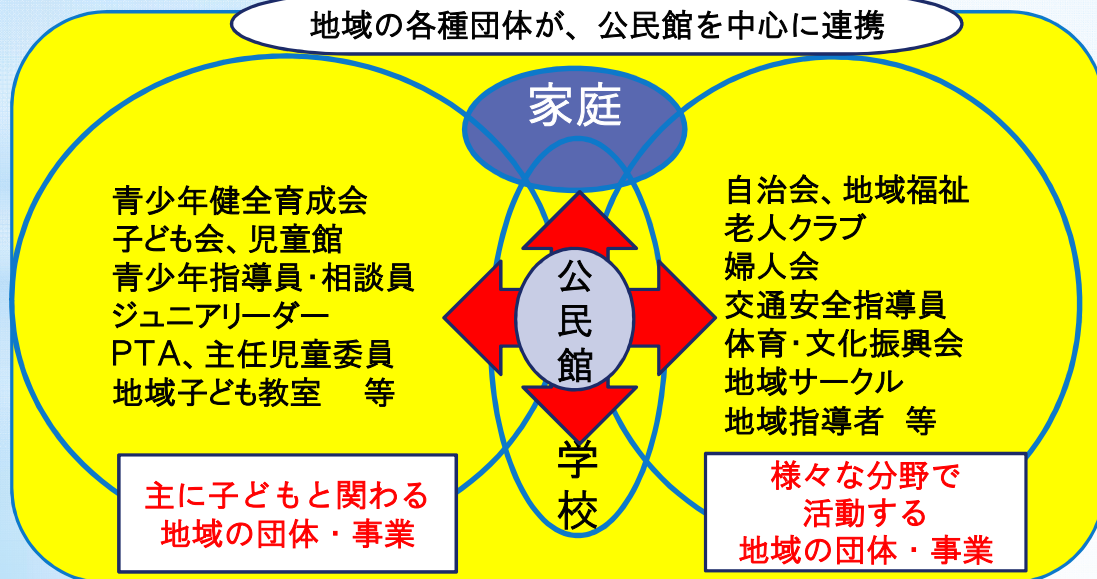
「地域で子どもを育てる」という意識の向上

地域の特色ある
既存事業



「家庭教育支援」
の視点で再検証

地域の各種団体が、公民館を中心に連携



新たな事業に発展

例

- ★ 防災訓練で子どもの体験コーナー
- ★ 地域イベントで子どもスタッフの活躍
- ★ 子どもが企画・運営するバザー
- ★ 高齢者と子どもをつなぐ発表会
- ★ 地域の指導者が企画する子ども体験教室 など

期待できる効果

- ◆ 地域で子どもの活躍の場が増える！
- ◆ 保護者が、活躍する子どもを見るために地域のイベントに参加する！
- ◆ 子どもも保護者も、地域の人とお互いに知り合いになれる！
- ◆ 子どもが自ら考え行動する場ができる！
- ◆ 地域の人から、子どもが礼儀やマナーを学ぶ機会が増える！
- ◆ 地域主体の事業展開で、人材が育つ！

【地域ぐるみ家庭教育支援事業】

- 平成26年～27年 睦合南地区・森の里地区
- 平成28年～29年 厚木南地区・依知北地区
- 平成29年～市内全15地区にて実施